

# ellipse

[エリプス]

## TOPICS

**シニアと子どもがともに参加する世代間交流**  
**：演劇ワークショップの有効性に関する検討**  
 —2015年度お茶の水学術事業会助成金事業より  
 北原 靖子 (川村学園女子大学文学部心理学科 教授)  
 加藤 知佳子 (豊橋創造大学大学院健康科学研究科 教授)

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター  
 東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。

## REPORT

- ◆ 事業報告 助成金事業  
 桜蔭会大阪支部講演会  
 「なぜ日本は、少子化・財政難国家になってしまったのか?~今後の女性の政治参画への期待~」(講師 嘉田 由紀子 氏)
- ◆ 事業報告 (共催講演会)  
 桜蔭会新潟県支部講演会  
 「子育てに『もう遅い』はありません ~どの子も伸びる共有型しつけのススメ~」(講師 内田 伸子 氏)

- ◆ 事業報告 (共催講演会)  
 桜蔭会山梨支部講演会  
 「ポリフェノールと健康~飲食で、体の錆を落とすアンチエイジング~」(講師 近藤 和雄 氏)

夢のつばさ♥プロジェクトニュース

## INFORMATION

お茶の水女子大学イベント情報  
 事務局よりお知らせ



特定非営利活動法人  
**お茶の水学術事業会**

# シニアと子どもがともに参加する世代間交流 ：演劇ワークショップの有効性に関する検討

## —2015 年度お茶の水学術事業会助成金事業より

北原 靖子 (川村学園女子大学文学部心理学科 教授)

加藤 知佳子 (豊橋創造大学大学院健康科学研究科 教授)

- お茶の水学術事業会は、2015 年度の「教育・研究活動に関する事業」の一つとして、
- 「シニアと児童と一緒に参加するまなび（演劇ワークショップ）促進効果の調査研究」（北原靖子氏・
- 加藤知佳子氏、2015 年 8 月～ 2016 年 3 月）に対する助成を行いました。
- 少子高齢化が進み、家庭の教育力が低下しているといわれる昨今、地域における異年齢間交流を活
- 性化していくことは大きな意味を持つと考えられます。そこで今回は、両氏に調査研究の具体的な内
- 容と知見について、解説をしていただきます。

### はじめに

少子高齢化が進む我が国では、各世代への支援を相互乗り入れして効果的に実施する手立てが求められています。世代間の出会いはさまざまですが、シニアと子どもの場合を概括すると、高齢者向けの施設ベースでは遊びが中心の世代間「交流」、学校ベースでは文化や情報の世代間「伝達」活動が中心となっています。それぞれ趣旨に忠実なのかもしれませんが、せっかく既存体制を包括化統合化する時代の要請があるのですから、もっと自由に発想してみたいものです。たとえば、交流・伝達のどちらでもない、「新しい面白いことを教わって、一緒に楽しむ」仕掛けは、ないものでしょうか？

### 演劇ワークショップの可能性

演劇ワークショップとは、ことばとしぐさによる表現を伴う共同作業や創作体験を通して、何らかの発見や洞察を得る活動です。加藤は、ここ数年、勤務先の大学でもコミュニケーション能力が必要とされる理学療法学科の学生に演劇ワークショップを活用したまなびを提供していますが、とにかく「演劇ワークショップは楽しい」と感じています。「演劇」とはいうものの、既成の作品を演じることはほとんどありません。その活動から何を学ばかはそれぞれの参加者に委ねられていますし、場を取り仕切るファシリテータと参加者との関係も、いわゆる「先生」と「生徒・学生」のような上下関係にはありません。この対等な関係における自由なまなびが楽しさの秘訣なのだろうと考えられますが、この点は、年齢も育った環境も

異なるシニアと子どもが、継続して参加したくなるまなびを考える上でも、大きな利点ではないかと思われました。

一方、北原は地域の福祉や教育の場に関わっていて、施設や学校では決まったプロットにしたがって事前に練習してきたものを見せる「セレモニー」が多くて物足りないなと感じていました。一緒に何かする活動も、囲碁・習字・工作のようにやること、まなぶべきことが決まっています。こうした従来のパターンとは異なる演劇ワークショップからは、異世代が参加する活動ならではの「気づき」も出てくるかもしれません。

とはいえ、現状ではまだ異世代間が出会うことに特化した演劇ワークショッププログラムはないと思われましたので、私たちの地元である千葉県我孫子市と愛知県豊橋市で行われている演劇ワークショップへの調査を通じて、その可能性を探ることにしました。

### 視察した2つのワークショップ

千葉県我孫子市では、放課後子ども教室において子ども文化支援 NPO 団体パコモがイギリスからドラマセラピスト Bryn 氏を招聘して行った「演劇ワークショップ」を見学しました（調査1）。ここでは子どもだけで行った回に加えて、地域のシニア有志と子どもと一緒に参加する回も試行してもらい、両場面を比較することができました。

また愛知県豊橋市では、地元の芸術劇場プラットで行われた「ワークショップ緑日」に参加見学すると共に、指導者である2名の専門家に、シニアと子どもが参加する演劇ワークショップを運営することについて、聞き取り調査をしました（調査2）。

各ワークショップの様子を簡単にご紹介します。我孫子では、Bryn 氏の英語に通訳がついて、1回1時間半程度の活動が展開されました。皆で名前を伝えあって復唱したり、手を叩いたり、ペアを組んで相手の動作をミラーリングするウォームアップを経て、数名のグループに分かれてメインの活動である「アニマル・アイランド」に進みます。Bryn 氏が袋から出してきた動物フィギュアの中から一つ選んで大判紙上に描かれた島に置き、そこで動物たちはどう暮らすか、生き延びるために必要なものは何か、台風が近づいてきたがどうするかなど、Bryn 氏の投げかけに応じてその場で自由に語り、色鉛筆で島の中に家や川を描き入れるなどしていきました。ひととおり終わったら皆で島をながめ、自分の動物に一言声を掛けて袋に戻して終わりです(図1)。



図1 演劇ワークショップの一コマ(パコモ提供)

一方、豊橋の「ワークショップ縁日」というのは、「演劇ワークショップファシリテータ養成講座」(以下、養成講座)の成果として、夏休みの1日を使って養成講座の受講生がさまざまなワークショップを開催するものです。指導者による演劇ワークショップも行われました(図2)。まず、じゃんけんや鬼ごっこなどの遊びをアレンジした、他者のことばやしぐさに呼応して遊ぶゲームが行われました。徐々に、数名がチームとなって何かを演じるゲームが行われるのですが、最後には、昔話のシーンを静止画で演じるゲームが行われました。

両者を見比べてみると、豊橋で専門家が行った活動は、まさに「楽しい」感じで、今・この場をありのままに寿ぐことができるようでした。それに対し我孫子の活動は、「楽しい」よりは「深い」感じ、先に進む自由が保障されている感じです。



図2 演劇ワークショップの一コマ(プラット提供)

一人一人の自由を大切にしている点は共通していましたが、活動としてはかなり違って、演劇ワークショップのすそ野の広さを感じました。

### 結果1：参加児童の様子

児童に関するデータは、我孫子の事例で収集しました。我孫子のワークショップには、子どもだけの1回目と異世代混成の2回目の各々に、9名の児童が参加しました(低学年4、中学年6、高学年4、男子5・女子9、うち4名は2回とも参加)。終了直後に、参加した感想を教えて欲しいと頼んで投票箱を示し、「よくわからなかった」「ふつうによかった」「まあよかった」「すごくよかった」の4つから1つ選んでもらいました。結果を「すごくよかった」か、そうでないかに単純化して整理したところ、異年齢混成の回の方が厳しい評価に終わる結果となりました(図3)。詳しく見ると、1回目が楽しかったからまたやりたいと2回目も参加した4名ではどちらも「すごくよかった」のですが、もともと好きな子4名を除いた初参加で高評価をつけたのは、5名中4名から1名になってしまったのです。

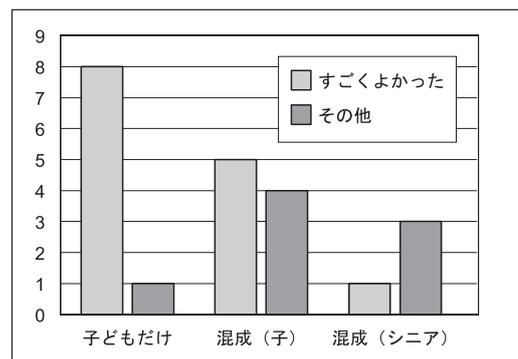


図3 回別年齢層別ワークショップ評価

子どもの動作や話し方を見ますと、自分たちだけの回では、背中を丸めていたり、体をゆさぶったり、両手で足をつかんだりなどしながら、「えっと…」[…でえ、そいで…]といった語り口がよく見られました。一方、シニアと隣りあわせが多かった異年齢混成の回では、姿勢をぐらつかせたりせず、ハキハキと発表的な語り口になって、考えている途中シニアから「こうじゃないかな」など助言があったときは、素直に従っていました。初対面の年長者を相手に少し「よそいき」モードになってしまったことが、言動の硬さを生み、参加評定に反映したようです。

### 結果2：参加シニアの様子

我孫子で参加したシニア4名(70代男3、60代女1)は、決して支配的にふるまったわけではありません。むしろその逆で、子どもより一歩分後ろに引いて座っていて、子どもがすぐに考えつけない時にヒントや助言を与えたり、難しそうなのは率先して自分がやってみせたり、子どもの作業を手伝って

あげたりしていました。後のふりかえりをしたときに、「私たち何を求めているのかわからなかったので、どう動けばよいか迷った」という発言がありました。事後評定もしてもらいましたが、「すごくよかった」は4名中1名に留まっていた。私たちがお願いして参加して頂いたこともあり、子どもだけでなくシニアにも多少緊張や気負いがあったようです。

一方、豊橋のワークショップには、養成講座の受講生としてシニアの方も参加されていましたが、イベント（ワークショップ縁日）に来場する子どもと接することに不安と戸惑いのあるものの、「何かを教えたいとか何をさせたいという思いはない」と話されていた点は、我孫子の事例と異なる点だと思われました。これは、養成講座を受講することによって、参加者の反応に呼応して、大人の役割も随時変わるという構えができていたからだと考えられました。演劇ワークショップは、世代間交流活動のコンテンツというだけでなく、うまくゆけば、お互いの先入観にもとづく構えをリセットする研修にも適しているかもしれません。



### 結果3：専門家への聞き取り調査

演劇ワークショップの本質である「自由さ」について、主宰者である専門家はどのように考えているでしょうか。

我孫子でワークショップを主宰したBryn氏は、参加シニアの質問に答えて、自分の望みとして、参加者には穏やかで受容的な感覚の中で、自由であること、リラックスすることを楽しんでほしいと述べていました。また自分たちの役割についてシニアから質問を受け、子どもと一緒に目線で遊ぶのがよいか、子どもをケアする目線で遊ぶのがよいか葛藤があったというのは大切な質問で、答えはどちらでもよい、自分がどんな役割を果たそうとするのかを考えること自体が大切だと応じていました。

豊橋での養成講座を指導した柏木陽氏とすずきこ一氏へのインタビューでは、活動を行う場や異なるグループの思い込みや期待によって、参加者の行動がいかに規定されるかが話題となりました。我孫子の事例でもあったように、子どもはシニアが同席すればそれだけで「よい子」になりますが、シニアも介護者や家族の思い込みや期待に従ってふるまうというのです。柏木氏からは、皆に「歩けない」と思われ、実際に「歩いていなかった」シニアの方が、順番が来たら何かやる（何をやってもいい）という演劇ワークショップのゲームの場では「車いすから立ち上がりて踊った」というエピソードを紹介して頂きました。これはまさに、正解が決まっていないオープンエンドの活動であるからこそ可能であったと思われました。



### 結果4：参加シニアの心理特性の分析

さて、人には個性・相性があります。演劇が全ての人に好か

れるとは限らないでしょうし、持ち味である出会いの自由さが、参加者（特にシニア）の戸惑い・不安を誘い、参加を阻むハードルになる可能性も、考慮しておくべきと考えられました。そこで、我孫子で参加して下さったシニアの方々の心理特性について調査分析しました。

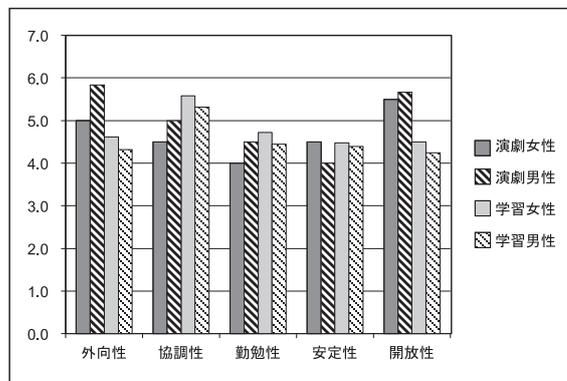


図4 性格検査の結果

まず、性格5因子検査(TIPI-J)を実施し、前出の参加者4名の性格特性を調べました。参考までに、別の研究で調べた「音読計算」の学習活動に参加しているシニア(女51、男19)のデータと比較してみると、演劇ワークショップに参加したシニアは、「外向性」と「開放性」が統計的に有意に高いことがわかりました(図4)。演劇ワークショップに参加した女性が1名と少ないため、性別の要因も加味した統計的な解析を行うことはできませんが、常識や他者からの期待にとらわれずに、自由に自分を表現する傾向がもともと高い方が、演劇ワークショップに関心をもつ傾向にあることが示唆されました。

次に、自分では自覚することが難しい社会的刺激に対する知覚・認知特性について調べるため、社会的刺激(目の図形)に対する注意転換反応実験にご協力頂きました(図5)。実験で使用した課題では、最初に提示される目の図形の視線の向きと後に出るターゲットの位置が一致している場合は、ターゲットに対する反応時間が短くなるという効果が知られています。最近の研究によれば、加齢に伴ってこの効果が弱まる(他者の視線に応じて注意を自動的に転換する能力が低下する)と報告されています。今回、女性参加者1名では若年成人同様の効果が検出されましたが、3名の男性参加者では視線の

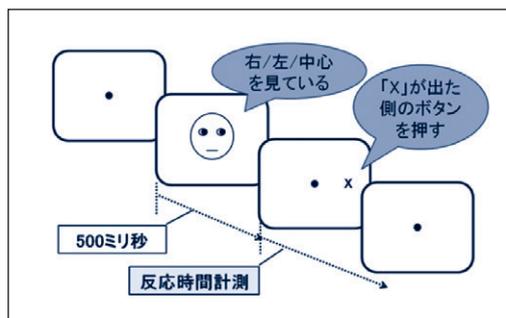


図5 心理実験課題

向きによる反応の違いが小さく、平均的なシニアの反応といえるものでした（もともと性差も報告されています）。

シニアは年齢差・個人差も大きいので安易に結論づけできませんが、今回収集したデータを見るかぎり、好みの上で相性はあるかもしれませんが、ヒトに対する刺激に敏感でないといふ演劇ワークショップに参加できないというほど、人を選ぶことはなさそうです。

## 総合考察

加藤は、演劇ワークショップの持ち味である「自由」さは、人間が他者に配慮し、互いに尊重するうえでも重要な要因であると考えています。現在の日本では、他者の期待や要求に応えることがよしとされ、そればかり訓練されがちです。自分の責任で自由にことばを発し、ふるまうことの重要性を誰も理解せず、多くの場において、大人（シニア）と子どものそれぞれがふさわしいことばや振る舞いを課されます。

その結果、まず、思いもよらない能力や創造性の発揮が阻まれています。特に、シニアは、自分自身でも自分の能力に対する強い思い込み（できるはず、あるいは、できないに決まっている）で自分を縛っているかもしれません。その点では、シニアにとっても自分の潜在可能性を引き出す自由な表現の場を用意することは大変有効であると考えられます。

また、他者や場から課されたことばや振る舞いは、自分の責任で行うものとして自覚されにくいものだと思います。自由に表現することと引き替えに感じられる責任は、他者を傷つけないようにふるまう配慮を喚起します。演劇ワークショップは、核家族化が進んだ現在、シニアと接する機会の少ない子どもたちにとっては、身体を通して、シニアへの配慮あることばかけと振る舞いを学ぶよい機会になるのではないかと考えられます。

北原は、演劇ワークショップが「身体的」なところに魅力を感じています。教育場面では、たとえばソーシャルスキルトレーニングで「わかりましたか？ ではやってみましょう」「やってどうでしたか？ わかりましたね」などよく口にしますが、こういうときの「動き（やってみる）」は、正しい行動に仕上げる練習や、意識の確認のために消費されて終わっています。しかし演劇ワークショップでは、小学生とシニアは互いの動き方やバランスのとおり方が違うことに、相手のミラーリングをやっているうちに「気づく」のです。この演劇ワークショップならではの身体性優先（考えてから動くのではなく、動きを通して考えること）は、まなびに真実味を与えます。

このメンバーとこの場ならミラーリングをやろうといったように、気づきに通じる「動き方」を塩梅よく仕掛けてくるのも、演劇ワークショップ専門家の優れているところです。一口に子

どもと高齢者といっても組み合わせには幅があるので、動きの仕掛けには開拓の余地があるでしょう。たとえば重度障害者との共生を探るスヌーズレンは、能動的な動きに代わって、「見る・聞く・触れる・嗅ぐ」など知覚を通した気づきを工夫しています。アプローチに共通性がある領域同士が連携して工夫を重ねてゆくと、さらに持ち味である身体性の可能性が広がっていくと期待しています。

しかし、今回の調査を通して、私たちには可能性だけでなく課題も見えてきました。もっとも難しいのは、演劇ワークショップの根幹である自発的で自由な構えでの参加を保証する「場」を設営することです。これが、制約の多い現実の活動の場ではかなり難しいということもわかりました。たとえば、我孫子で行われた「アニマル・アイランド」の場合、「こうなったとき（動物は）どうするか」を小学生が語るの、少し難しかったと思います。そのようなときシニアは、ことばが口に上るまでの過程を楽しんで待つ代わりに、「見守り役」を担ってヒントや助言を与えていました。外向的で好奇心も高い性格の方々でも、勝手がわからないと、放課後子ども教室における子どもと大人の関係枠組みから自由になれなかったといえるかもしれません。子どももそれに従ってしまい、自分のことばとして語りになくなってしまいました。豊橋は演劇専用スペースがあり研修のしくみも整っていますが、世代間が出会う仕掛けをするところがすべてそのように恵まれるとは期待できませんから、演劇ワークショップをやってみるときは、実際の活動以上に、「場」の設定が大きな課題になると思います。

## おわりに：今後の課題

今後は、異なる世代の人々がそれぞれの潜在可能性を発揮しつつ、自発的に互いへの配慮あるふるまいができるようにする場をつくるために、学校や自治体などより多くの人々を巻き込んで、具体的な試行を重ねていくことになると思います。その過程で明らかになる現実的な障壁への対策と提案が今後の課題となると私たちは考えています。そのためにも、今回の調査研究は大変実りあるものとなりました。

最後になりましたが、今回の調査研究を助成してくださいましたお茶の水学術事業会に、こころより感謝申し上げます。

〈成果発表〉

北原靖子・加藤知佳子. (2016). シニアと児童が一緒に参加する演劇ワークショップの有効性に関する検討. 川村学園女子大学研究紀要, 27, 1, 65-88.

加藤知佳子・北原靖子. (2016). シニアと児童がともに参加するまなびを促進するには：演劇ワークショップの試行. 日本発達心理学会第27回大会発表論文集, P425.

◆ 事業報告 助成金事業

● 桜蔭会大阪支部講演会

「なぜ日本は、少子化・財政難国家になってしまったのか? ~今後の女性の政治参画への期待~」

講師 嘉田 由紀子 氏 (前滋賀県知事、びわこ成蹊スポーツ大学学長)



【日時】 2016年5月14日(土) 10:30 ~ 12:00

【会場】 大阪大学中之島センター 交流サロン ラミカル

【主催】 桜蔭会大阪支部 【共催】 一般社団法人桜蔭会

【助成】 特定非営利活動法人お茶の水学術事業会

【参加費】 無料

【参加人数】 31名

嘉田先生は、ご自身の生い立ちから、なぜ京都大学を選び琵琶湖辺の水田農村を研究対象にしたのか、なぜ知事になったのか、仕事と家庭、子育ての両立をどのようにしてきたのか、なぜ日本は少子化、財政難国家になってしまったのか、女性の政治参画は実は社会と経済を元気にできるのだというようなお話を、色々な角度から非常にわかりやすく話してくださいました。前もって多くの資料を用意して下さったので、お話を聞いていて整理しやすく、とても有意義な時間を過ごすことができました。



OECD加盟24カ国で女性の労働参加率が高い国は、出生率も高く、財政も安定しているという資料図を示されました。

北欧などは社会がサポートしてくれるので、子生子育てと仕事の二者択一を迫られることなく、男女共に子育て、社会参加が可能になっています。北欧3カ国の憲法では子育て中の単身赴任は禁止されているということを知りとても驚きました。

女性が仕事に出るから子どもが生まれにくいというのは幻想で、事実は逆なのです。女性の就業率が高く人口の増加率が高い国は財政、社会保障が安定しており、女性は仕事と子育ての両立が可能となり、納税者、社会保障の支え手としても貢献できるということなのです。

日本では「男は外」で「女は家」という考え方がいまだに根強く、そのため「専業主婦モデル」が税制度や社会保障制度で継承され、政治家や企業経営者の中で当然とされてきました。国民が額に汗して納めた税金の使い方を日本は間違っていて、それを主導してきたのが男性政治家であり、現在でも日本の女性議員の比率は200カ国の中で154位だそうです。男女共働きを国家として保障しないと特に小さい国は成り立たないということを知り見通していなかったのです。

女性の労働参加度の低い府県は出生率も低いという図表も示されました。

嘉田先生の経験から

- ① 男性の意識、長時間労働が女性の働き方を左右するという家庭の問題
- ② 職場における仕事と子育ての両立への理解が不十分、女性が継続して働ける制度が不十分、男性の育休取得率が低いといった職場の問題
- ③ 子どもが病気になった時など緊急時に預けるところが身近にないとか、子育て支援の情報がどこで提供されているのかわからないといった地域の問題
- ④ 女性自身が必ずしも継続就労という働き方を選択しておらず、働き方の多様化など自分の問題

これらの4つの要因をすべてクリアすれば、女性が働き続けられる社会が構築され、男女共同参画社会の実現へと進むというわけです。



1970年代に男女共働きを実現した北欧では、国家として財政と社会保障は安定しています。また子育て、介護など個人の生活の保障を国家が実践しています。

嘉田先生は知事として県政に携わった8年間で特に子育て支援、女性の政治参画を重視してこられました。滋賀県独自の政策として、働きたい女性の願いをかなえるために『滋賀マザーズジョブステーション』を県立男女共同参画センター内に開設されました。

こういった政策をもっと国がとるべきなのです。自分の子どもや孫がどう生きていくのか、特に若い世代が仕事の不安、未来が見えないところで苦しんでいる事を真剣に考えねばなりません。

(桜蔭会大阪支部 米田 千津子)

お茶の水ブックレットのご案内 各500円(本体価格)



お茶の水ブックレット9  
「子どもは変わる・大人も変わる  
一児童虐待からの再生」

お茶の水ブックレット10  
「キャリア・デザインと子育て  
一首都圏女性の調査から」

## ◆ 事業報告 共催講演会

## ● 桜蔭会新潟県支部

# 「子育てに『もう遅い』はありません ～どの子ども伸びる共有型しつけのススメ～」

講師 内田 伸子 氏 (お茶の水女子大学名誉教授 桜蔭会会長)

【日時】 2016年6月19日(日) 14:00～16:15

【会場】 新潟市ユニゾンプラザ4階 大研修室

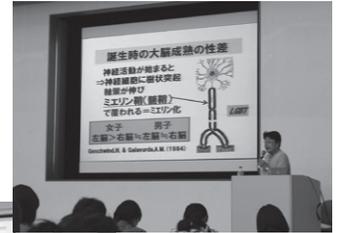
【主催】 桜蔭会新潟県支部

【共催】 一般社団法人桜蔭会 お茶の水学術事業会

【後援】 新潟市 新潟市教育委員会

日本学校メンタルヘルス学会 FPIC 新潟ファミリー相談室

【参加費】 無料 【参加人数】 149名



少子化への懸念、待機児童、子ども虐待、あるいは早期からの英語教育の必要性などがマスコミを賑わし、子育ての現役および予備軍の保護者は多くの情報に接しています。

その際、直截的な問いに答える方法論はあふれており、互いに逆の方法を主張する情報が錯綜する中で、子育てに自信を失う保護者もおられます。しかも、子育ては、多重な人間関係のみならず、社会的・経済的・行政的・歴史的な影響も大きく受けます。

このような状況の中で、長年にわたり「子どもが育つみちずじ」を深く究めてこられた内田伸子様のご講演を新潟県の地で!ということが、支部会員の一致した願いでした。きっかけは、お茶の水ブックレット9。ここに内田様のお茶大における最終講義があり、支部総会で共有しました。

一年あまりの準備期間を経て、このたび標記の公開講演会を開催することができました。



チラシを関係諸機関に配布、会員の知人や友人、ご近所の方みなさんに手渡しや郵便、あるいはメールなど広報につとめました。地元有力紙である新潟日報さんから大きく広報していただくことができました。

子育て中のみなさんを中心に、保育士さんや義務教育学校の教職員のみなさん、社会教育関係者や保健師さんたちが参加して下さいました。

若い支部会員の意見を参考に、保育サービスも設定しました。この運営は少々大変でした。しかし「内田様のお話を聴きたい!でも幼いわが子をその時間、みてる人がいない」という保護者のみなさんのニーズにお応えできたと思います。



内田様のお話のエッセンスを紹介しましょう。

- 極限状態の己を救った、V・E・フランクルの「想像力」

- 1～3次認知革命 (生後10ヶ月、5歳、9～10歳前後)
- 脳の男女差 「物語型」と「図鑑型」 母語の成り立ちと思考過程の関係
- ものおじしない3歳児 恥ずかしがりやの4歳児 空気の読める5歳児
- 五官を使う主体的な遊び、思考を促す応答 共有型のしつけ これが本当の学力を育てる
- 3Hを大切に ほめる・はげます・(視野を) ひろげる



講演後、一般の119名の方からアンケートをいただきました。それによりますと、66%の方が「非常によかった」23%が「よかった」、11%は未記入でした。自由記述の1つが以下です。「とても分かりやすく展開が面白く内田先生のお話にぐいぐい引き込まれ、あっという間の2時間。うちの長男は小1、長女は2歳です。内田先生のお話にたくさん2歳と5歳がでてきて、『あるある』と思わず笑ってしまいました。(中略) ハッとしました。日々忙しくてバタバタする毎日ですが、わが子の成長に一呼吸おいた心で関わりたいと思いました。」



内田様のお話は、「きっとこうだろうな」と思いつつ日常の慌ただしさや情報の洪水に本質を見失い不安となる保護者のみなさんに、子育てに関わる勇気と安心、そして何より日常にあるささやかであるけれど大切な喜びを見直そうと促す大きな力がありました。すなわち、内田様は聴衆のみなさんに大きな3Hをプレゼントして下さいました。新潟県のみなさまに桜蔭会員として社会貢献の一端を担うことができたことを感謝します。

末筆ながら、ご後援いただきました各種団体、とりわけ桜蔭会様とお茶の水学術事業会様には的確なご助言とご示唆をいただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

(桜蔭会新潟県支部 井上 恵)

## ◆ 事業報告 共催講演会

## ● 桜蔭会山梨支部講演会

「ポリフェノールと健康  
～飲食で、体の錆を落とすアンチエイジング～」

講師 近藤 和雄 氏

(東洋大学食環境科学部教授、お茶の水女子大学名誉教授)



【日時】 2016年6月25日(土) 13:30～15:30

【会場】 甲府市総合市民会館 大会議室

【主催】 桜蔭会山梨支部

【共催】 一般社団法人桜蔭会 お茶の水学術事業会

【参加費】 無料

【参加人数】 81名

講師の近藤和雄先生は2015年にお茶の水女子大学を定年退職され、現在は東洋大学食環境科学部教授としてご活躍されている。先生の研究テーマは「食物と人体のかかわり」であり、心筋梗塞や脳梗塞を起こす動脈硬化の予防を念頭に研究され、多くの業績を上げられている。これまでに生体内LDL(悪玉コレステロール)酸化抑制作用並びに食後高脂血症改善作用を有する赤ワイン、緑茶などのポリフェノールを含有する食物の存在を明らかにされている。今回は山梨県での開催ということもあって、ワインのポリフェノール効果についても詳しく触れてほしい旨をお願いしての講演会だった。



ポリフェノールという言葉は、今やかなりの市民権を得ており、体に良い物質として関心が持たれているが、今回は具体的に分かりやすいデータによる説明があり、今まで何となく抱いていたイメージや知識にしっかりと裏付けが加わり、納得できたことがうれしい。

事例に挙げて説明されたフレンチパラドックスでは、フランス人がこってりとした食事を摂っているにも拘わらず冠動脈疾患による死亡率が低いのは、日常的な赤ワインの摂取によるものであるとの説明。山梨県人の冠動脈疾患による死亡率を知りたくなかったが、近藤先生によると、このフレンチパラドックスに対しジャパニーズパラドックスもあり、その要因は緑茶摂取によるものではないかとの見解をお持ちであった。

さらには多くの食品からポリフェノールを取り入れている日本食を大事にして欲しいと話された。日本人のポリフェノール摂取量は食事から2割弱、飲み物から8割強であり、飲み物に限れば1位がコーヒー、2位が緑茶、3位が紅茶の順である。摂取量としては緑茶がコーヒーより多いが、コーヒーは緑茶の2倍のポリフェノールを含むため、全飲料のポリフェノール源としてはコーヒーから50%摂取されており、緑茶からは

約34%であることが分かった。

加えてコーヒーポリフェノールは人体内での吸収性が非常に高く、私たち女性の関心事である紫外線(光老化)によるシミ、しわ、発がんに対し改善効果もある。コーヒーをブラックで飲めば1日2杯で最も効果があるということを知った。これまで、私やその周辺の知人はシミやしわ予防にはビタミンCが効果的であると信じ、サプリで補う、食品を選ぶなどを当たり前のよう実践してきた。

植物由来の抗酸化物質の一つであるポリフェノールが注目されてきているのは、体内の細胞や組織などを酸化して(いわば錆びさせて)老化を加速させたり、糖尿病、脳疾患、心筋梗塞、狭心症、がんといった多くの疾病の原因となったりする活性酸素の消滅に効果があるからである。老化そのものを止めることは出来ないものの、活性酸素の発生を抑え、いかにさびにくい体を維持していけばよいかを、具体的なデータの裏付けのもとに気づかせ、再認識させてくれた今回の講演会は好評を得た。参加者は80名ほどであったが、講演後は質問が途切れることがなかった。身近な食品とアンチエイジングをテーマとした本講演会に目的意識をもって臨んだ方々が多かったことを実感した。



講演会終了後、近藤先生と喫茶室に行ったのですが先生が頼んだ飲み物はもちろんコーヒーでした。が、ブラックではなくて砂糖入り。「食べ物はおいしくいただくなかつちゃ」という持論を地で行っている先生の生き方に大変共感できた瞬間でした。

(桜蔭会山梨支部 新海 宏子)



## 夢のつばさ♥プロジェクト

「夢のつばさ♥プロジェクト」は、東日本大震災で親を失った子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、お茶の水学術事業会を中心としたNPO法人4団体によって進められている事業です。

## 2016年夏キャンプ

- 【実施期間】 2016年8月6日(土)～9日(火)  
 【開催地】 (株)ブリヂストン保養所 奥多摩園(青梅市)  
 【参加内訳】 小学生10名、中学生10名、高校生4名、学生ボランティアスタッフ48名(入替り有、OB/OG含む)、  
 社会人スタッフ/協力者19名(看護師含む)

## 【主な内容】

8月6日	開会式、アイスブレイク、音楽会(テノールオペラ、バイオリン)
8月7日	朝の勉強会、夏遊び企画(スイカ割り、水遊び)、Y-1グランプリ(紙飛行機の的当て、トランプピラミッド、ロゴデザイン、万歩計カウント競争)
8月8日	朝の勉強会、組み立てハウス制作、工場見学
8月9日	閉会式、写真スライドショー

今年の夏キャンプは、土曜日から始まったこともあって、大学生ボランティアおよびOB/OGも多数参加して行われ、元気一杯、笑顔溢れる3泊4日を過ごすことができました。

1日目の音楽会には、テノール歌手富澤祥行氏とバイオリンリスト大庭絃子氏をお迎えしました。子どもたちのために、お手製の紙芝居による解説を交えてオペラの名アリアを次から次へ歌ってくださり、バイオリンのチャルダッシュも加わって圧巻のコンサートでした。



音楽会

2日目はスイカ割りをしたり、恒例の「思いっきりずぶ濡れ水遊び」を楽しんだり、個人競技で様々な種目の1位を競うY-1グランプリなど、アクティブな企画が並びました。Y-1グランプリでは体力勝負あり、繊細さや集中力を競う種目あり、美術センスを発揮するものあり・・・で、多様な子どもが楽しめるよう準備しました。最終日には優秀者の表彰式を行いました。

3日目は、東京電機大学の岩城和哉教授ご指導の下、組み立てハウス作りに挑戦しました。長い木材を組み合わせ、工具を使っての組み立てに、すっかり夢中になる子どももありました。組み立てたハウスには、子どもたちが絵を描いた色とりどりの風船をたくさんつけて飾りました。この日の夜にはハウスのライトアップも行い、幻想的な印象に歓声があがっていました。



ハウス組み立て



夢のつばさハウス

3日目午後はコカ・コーラ多摩工場を見学しました。学生たちは、バス移動中のアトラクションなどもすっかり上手になりました。また様々なクイズを用意して、貴重な社会見学の機会に興味を持って参加できるよう、工夫して臨みました。

今回のキャンプでは、初めて小学生と中高生の割合が逆転し、中高生が多くなりました。継続して参加する子どもも多く、指示や話を積極的に聞けるようになり、また生活面での成長も見受けられて、学生やスタッフ、特に活動当初から関わるOB/OGたちを喜ばせました。この夏まで学生代表を務めたお茶大生は「閉会式で、中学生の2人が子どもたちを代表して、宿舍職員の方に丁寧に敬礼を述べた場面で、彼らの感謝の気持ちを実感し、その真摯さを持ち続けてほしいと願った。私たちは子どもたちを大きな優しさで見守っているが、また、子どもたちからも優しさをもたらしている。この温かな関係性が私たち団体の誇りだ。」との感想を述べています。こうした心温まる活動を続けられるのは、夢のつばさに温かいお心をお寄せくださる多くの方々のお支えあってのことです。心より御礼申し上げます。引き続きご支援下さいます様、よろしくお願いたします。

(夢のつばさ♥プロジェクト)

## ご寄附のお願い

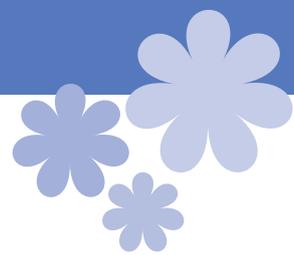
【口座】三井住友銀行 大塚支店(店番号227) 普通 1284200

【名称】特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会 理事長 平野由紀子 ※夢のつばさプロジェクトの専用口座です。

ご寄附いただく際には、ご芳名、ご住所(連絡先)を下記までお知らせください。

※恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。

連絡先:事務担当 滝澤公子 TEL&FAX:03-5978-5362 Email:tsubasa@npo-ochanomizu.org



# お茶の水女子大学 イベント情報

2016年10月以降に開催される各種イベントのお知らせです。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2016年 10月20日(木) 18:30～20:00	2016 FFF 健康食品フォーラム 「ヘルシーライフと栄養」 第4回「腸内環境と栄養」 講師：清水 誠 先生(東京農業大学)	3,000円	【会場】お茶の水女子大学 本館1階 103会議室 【主催・連絡先】NPO 日本健康食品評価認証機構 事務局 〒161-0031 新宿区西落合 2-6-6 Tel: 03-3565-6649 Fax: 03-3565-6647 E-mail: fff@wellcarenet.jp 【共催】お茶の水女子大学生活環境教育研究センター お茶の水女子大学寄附研究部門「食と健康」
2016年 10月28日(金)	平成28年度お茶の水女子大学附属中学校 教育研究協議会 協働的な課題解決を支える思考・判断・ 表現の力を育てる授業づくり —新教科「コミュニケーション・デザイン科」の開発— ●公開授業 ●各教科分科会 ●CD科、自主研究、全体会 ●講演 堀田龍也 先生(東北大学大学院)	一般 2,000円 (資料代 含む)	【会場】お茶の水女子大学附属中学校 【主催】お茶の水女子大学附属中学校 【詳細】 <a href="http://www.fz.ocha.ac.jp/ft/research/r_study.html">http://www.fz.ocha.ac.jp/ft/research/r_study.html</a> 【問合せ】お茶の水女子大学附属中学校 Tel: 03-5978-5865 Fax: 03-5978-5863 【申込み】詳細は HP に掲載の第二次案内をご覧ください。
2016年 10月29日(土)・ 30日(日) 両日とも 9:00～17:30	GREAT-Ocha — 学生による英語での研究発表シンポジウム テーマ：「情報とグローバル化」 (シンポジウムは、すべて英語で行われます。同時通訳 はありません。)	無料	【会場】お茶の水女子大学 本館213室 【主催】グローバル人材育成推進センター 【詳細】 <a href="http://www.ocha.ac.jp/intl/ocgl/global/great_ocha.html">http://www.ocha.ac.jp/intl/ocgl/global/great_ocha.html</a> 【問合せ】グローバル人材育成推進センター(石田) E-mail: great-ocha@cc.ocha.ac.jp 【申込み】不要 *会場整理の都合上、事前に上記メールアドレスへのご連絡をお願いします。
2016年 11月12日(土)・ 13日(日)(徽音祭) 12月17日(土) 12:00～16:00 見学は12月末まで 可能(要申込)	附属幼稚園創立140周年記念特別展 2016年に創立140周年を迎えたお茶の水女子大学附 属幼稚園のこれまでのあゆみと本学とのつながりをご 紹介します。	無料	【会場】お茶の水女子大学 本館1階 歴史資料館 【詳細】 <a href="http://archives.cf.ocha.ac.jp/tenji_you140/">http://archives.cf.ocha.ac.jp/tenji_you140/</a> 徽音祭以外の日程で見学をご希望の方は、上記ホームページを 確認の上、希望日の2週間前までにお申し込みください。 お茶の水女子大学 図書・情報課 歴史資料館窓口 E-mail: shiryo@cc.ocha.ac.jp
2016年 12月3日(土) 14:00～16:00	お茶の水地理学会講演会 「冒険の心、そして人生」 講師：向後 元彦 氏 マングローブ植林行動計画(NGO)相談役。アラビ ア半島マングローブ植林プロジェクト開始、サウジアラ ビア・アブダビで3万本のマングローブ植林の成功に より「ロレックス賞」を受賞。著書「緑の冒険—沙漠に マングローブを育てる」(岩波新書)など。	無料	【会場】お茶の水女子大学 共通講義棟2号館102 ※どなたでもご参加いただけますが、事前申込みが必要です。 【申込み】葉書もしくは Email 氏名・住所・電話番号をご記入のうえ下記までお申し込みください 〒112-8790 文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 文教育学部 地理学教室 Email: chiriog@yahoo.co.jp 締切り：11月25日(金)
2016年 12月10日(土) シンポジウム 13:30～15:00 ワークショップ 15:15～17:00	お茶の水女子大学、芝浦工業大学、物質・材料 研究機構 シンポジウム & ワークショップ 「工学系女性研究者比率向上の好循環 モデル」構築を目指して(仮) ※託児サービスがあります(要事前予約)	無料	【会場】芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京都港区芝浦) 【主催】平成26～28年度文部科学省科学技術人材育成費補 助事業 女性研究者研究活動支援事業(連携型) 【詳細】 <a href="http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/renkei/">http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/renkei/</a> 【問合せ】お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 E-mail: frsp-info@cc.ocha.ac.jp 【申込み】 <a href="https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Leadership/2016sw/">https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Leadership/2016sw/</a>
2016年 12月13日(火) 15:30～18:00	ヒューマンライフイノベーション研究所 公開シンポジウム ストレスや病気に負けない“からだ”をつくるための健康 イノベーションについて、学内外の講演者がお話します。	無料	【会場】お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201室 【主催】ヒューマンライフイノベーション研究所 【詳細】 <a href="http://www-w.cf.ocha.ac.jp/ihli/">http://www-w.cf.ocha.ac.jp/ihli/</a> 【問合せ】ヒューマンライフイノベーション研究所事務局 E-mail: office-ihli@cc.ocha.ac.jp
2016年 10月31日(月) 11月30日(水) 12:30～12:50 12月21日(水) 12:30～13:00 ※クリスマス企画 2017年1月20日(金) 12:30～12:50	図書館ミニコンサート ※演奏者：音楽表現(学)コース学生 ※ベヒシュタイン社製のピアノのコンサートです。	無料	【会場】附属図書館1階ラウンジ 【詳細】附属図書館のHP「コンサート情報」をご覧ください。 <a href="http://www.lib.ocha.ac.jp/concert.html">http://www.lib.ocha.ac.jp/concert.html</a> 【お問合せ】E-mail: lib-serv@cc.ocha.ac.jp ※お申込は不要です。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2017年 1月20日(金)～ 2月2日(木) 12:00～16:00	お茶の水女子大学歴史資料館 特別展 <b>お茶大における教育(仮題)</b> 本学の教育の変遷を寄贈されたノート等からたどります。	無料	【会場】お茶の水女子大学 本館1階 歴史資料館 【詳細】後日ホームページに掲載 2月6日以降の見学も可能です。ご希望の方は、歴史資料館ホームページを確認の上、希望日の2週間前までにお申し込みください。 お茶の水女子大学 図書・情報課 歴史資料館窓口 E-mail: shiryu@cc.ocha.ac.jp
2017年 2月16日(木)・ 17日(金) 両日とも 9:00～16:00	第79回 教育実際指導研究会 <b>学びをひらく</b> —ともに“てつがくする”子どもと教師— ●公開学習指導、学習指導についての話し合い ●課題別協議会(16日)、教科別協議会(17日) ●講演 西研先生(東京医科大学)(16日) 岸見 一郎先生(哲学者)(17日)	一般 4,000円 学生 2,000円 (資料代 含む)	【会場】お茶の水女子大学附属小学校 【主催】お茶の水女子大学附属小学校 【詳細】http://www.fs.ocha.ac.jp/H28koukai-1.pdf 【問合せ】お茶の水女子大学附属小学校 Tel: 03-5978-5875 Fax: 03-5978-5872 【申込み】11月下旬より本校ホームページより事前申込み受付予定

## お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾 2016年度冬学期

	講座名	開講日時	講師・主な内容など
冬学期 1月 講座	「イノベーションと アントレプレナーシップ」	2017年1月7日、15日 13:30～15:00、15:10～16:40 ※本講義の2回目は日曜開催(1/15) となります。ご注意ください。	鹿住 倫世 [専修大学 商学部 教授] イノベーションを創出する組織のあり方とアントレプレナーシップについて、講義とケース分析、グループワークを通じて学ぶ。
	「CSRと情報開示 (ステークホルダーの視点から)」	2017年1月21日、28日 13:30～15:00、15:10～16:40	達脇 恵子 [有限責任監査法人トーマツ アドバイザリー事業本部 第一事業部 ERS-ERM パートナー] 今や企業にとって欠かせない活動となったCSRの歴史や最新トレンドを説明し、企業と社会の関係のあり方を考える。また、企業を取り巻くステークホルダーの視点から情報開示を考える。
冬学期 2月 講座	「女性リーダーが使える ビジネス関連の法律」	2017年2月4日、11日、18日、25日 13:30～15:00、15:10～16:40	汐崎 浩正 [西村あさひ法律事務所 弁護士(パートナー)] 日常のビジネスに関係する法律や制度の知識を習得することを目的とし、可能な限り将来の法改正の方向にも触れる。

【募集人員】女性30名(各講座) 【受講料】1講座30,000円(一般)、27,000円(卒業・修了生) ※消費税別 【申込期間】冬学期2016年11月29日(火)～2016年12月13日(火) 必着【お問い合わせ先】お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾 事務局(水・金 午前10時～午後5時) TEL: 03-5978-5501 E-mail: kiin-le@cc.ocha.ac.jp ※詳細は、お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾 HP (http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin) をご確認ください。

**お茶の水女子大学 第67回 徽音祭**  
2016年11月12日(土)13日(日)開催

徽音祭という「旅」を存分にお楽しみくださいませ。

**今年度徽音祭のテーマ**  
“Bon Voyage!”

フランス語で「良い旅を」という意味を持つこの言葉に、ご来場される皆様に徽音祭という「旅」を心ゆくまで楽しんでいただきたいという想いを込めました。

**幅広い世代の方が楽しめる**  
**Event & Food**

毎年恒例、お茶大のミスコン「水コン」、豪華芸能人ゲストによるトークショーなど充実したステージ企画や、受験生に大人気、受験生相談室、キャンパスツアー&模擬授業、地域の皆様とのコラボ企画、無料指圧体験や緑日、代々受け継がれた秘伝のお茶大グルメを堪能できる模擬店、など老若男女問わずお楽しみいただける企画をご用意しております。

**Information**

徽音祭当日の詳細  
オリジナルグッズ販売

などの情報は徽音祭公式ホームページをご覧ください。

右のQRコードからアクセス可。  
URL: http://kiinsai.sakura.ne.jp

公式twitter @kiin2016

公式facebook 「お茶の水女子大学 徽音祭」で検索

徽音祭キャラクター きいちゃん

**ライフサイエンスから生まれたスキンケア**

細胞生物学の最先端研究の中で室伏教授が発見した新成分cPA(シービーイー)は、あなたの体内のヒアルロン酸を増やして、本来あるべき良好な状態に導きます。雅GraceはcPAを配合した世界初のスキンケアです。

**室伏きみ子(お茶の水女子大学長)監修**

**新成分**

**cPA**

配合

肌のヒアルロン酸増加

保湿成分

コラーゲンの働き強化

売上げの一部は、  
大学へ寄附されます

**雅Grace** 定価(本体価格)

グレイス化粧水(150ml) 6,000円  
グレイス乳液(100ml) 7,000円  
グレイス美容液(30ml) 9,000円

※写真は、グレイス化粧水 150mLです。

**美しく見える肌ではなく、ほんとうに美しい肌へ。**

**雅Grace —グレイス—、誕生。**

販売元: SANSHO株式会社 TEL 03-5203-0716 WEB http://c-pa.jp/  
なお、お茶の水学術事業会で、特別価格で取り扱いをしております。

お茶の水ブックレット、雅 Grace、お茶大ゴルフ、クリアファイル、絵はがき等のご注文・お問合せは、お茶の水学術事業会事務局まで。  
TEL&FAX: 03-5976-1478 Email: info@npo-ochanomizu.org

◆ 経済活動における男女共同参画促進事業報告



【開催日時】 2016年6月4日・18日・7月2日(土)  
13:30 ~ 15:30  
【会場】 女性専用コ・ワーキングスペース Albo セミナールーム  
【受講料】 3,000円(テキスト代を含む)  
【共催】 株式会社 M2.F  
【参加】 6名

昨年に引き続き、株式会社 M2.F (<http://www.m2firm.com/>) にご協力いただき、ステップアップを目指す女性を応援するセミナーを開催しました。今回は全3回とし、ライフプランや働き方とお金の関係、給与明細で確認すべきこと、信頼関係を築くための良いコミュニケーション作りのポイント、自分が伝えたいことを正確に伝え相手を納得させるスキル、起業と再就職のメリット・デメリットなどを学びました。

セミナー開始前に、受講生に「現在のお仕事状況」「今後



【主な内容】

6月4日	「家庭と仕事のお金の話」 講師：渡辺 明子 氏 Anna 人事労務サポート代表
6月18日	「働く女性のためコミュニケーション術」 講師：平野 正子 氏 株式会社 M2.F 代表 「プレゼンテーションスキル」 講師：池田 範子 氏 またたび企画株式会社代表
7月2日	「ビジネス最新知識」&コンピテンシー分析 講師：臼井 令子 氏 ポケットコンサルティング代表

の働き方の希望」「どのようなスキルを身に着けたいか」等のアンケート調査を行い、講師の先生方は、その内容を踏まえて、ワークシートやワークショップを取り入れ、双方向性を大切にしながらセミナーを進めていただきました。

これから就職活動をする学生さん、仕事を始めようとしている専業主婦、会社員、起業家など様々な立場の方が申し込んでくださり、積極的に講師に質問をし、和気藹々と情報交換をするなど、少人数のメリットを生かしつつ、全日程を終えることができました。

セミナー後のアンケートでは、「主婦10年という期間が長かったので、他の世界の情報を得ることができて良かった」「学生時代に聞きたかった(聞いておくと進路もかわったかもしれません)」といった感想の一方、「今、働く女性がおかれている立場はだいたいわかっていたので、起業例などもう少し増やして教えていただけたら良かった」という意見もありました。

このようなセミナーの意義を感じるとともに、スタッフも学ぶことの多い3日間でした。

編集後記

2004年の発売以来、知る人ぞ知る人気商品「お茶大ゴフル」の外箱を一新することになりました。“オールお茶の水”を意識し、大学、附属学校園共通の校歌「みが>ずば」と5つの校章が入ったデザインを検討しています。すでにイメージが定着しているものを変更するのは勇気が要りますが、より多くの皆様に愛される品となるよう頑張っています。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか？次号は2017年2月に2500部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

事務局

**OPEN 月～金 10:00～16:00**  
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部3号館 204  
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org)  
<http://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地  
東京都文京区大塚2-1-1  
お茶の水女子大学  
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線  
茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線  
護国寺駅から徒歩8分

都バス  
大塚2丁目バス停すぐ